



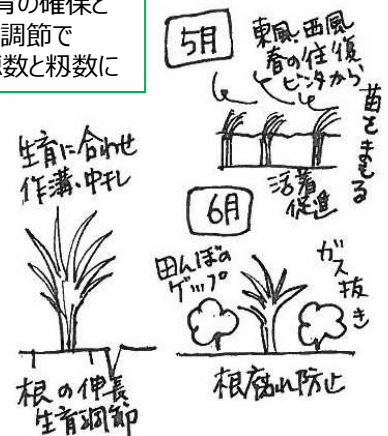
早めの準備で好スタートを！ 本田準備をすすめてみましょう！

管内では4月15日に播種のピークを迎え、徐々にトラクターで圃場を耕起している姿を目にするようになりました。「つや姫」はデビューから9年目の春を迎えました。今年も美味しいと喜んでもらえる「つや姫」をつくるため、初心に戻り、基本技術を点検しながらしっかり取り組んでいきましょう。

<品質・収量・食味安定のポイント>

- 田植えは5月15日までに完了しよう！**
- 早めの耕起で乾土効果を高めよう！
- 適正な有機物施用量・基肥施用量を再点検！
- 田植え後は水管理を徹底して活着促進！
- 初期生育の確保 浅植え・ワキ対策を行い**
目指すは6月20日の茎数 460本/m²！

初期生育の確保と
生育調節で
理想の穂数と粒数に



1. 早めの移植で収量確保

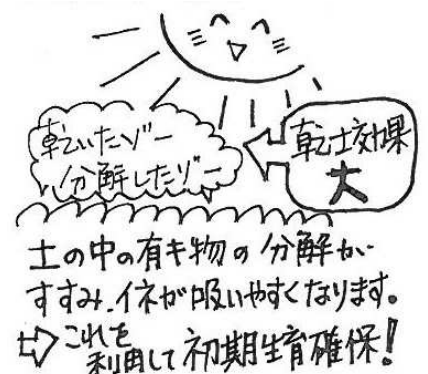
移植時期と平均収量(kg/10a)			
~5月10日	5月11~15日	5月16~20日	5月21日~
545	541	519	495

表1
鶴岡田川地域「つや姫」の移植時期と
平均収量 (H29 つや姫チェックリスト解析結果)

H29の「つや姫」栽培チェックリスト解析結果より、移植時期が遅くなるほど減収していることがわかります。
5月10日前後(遅くとも5月15日)には田植えを行い、初期茎数の確保・収量向上につなげましょう。栽植密度 70 株/坪、植込本数 4~5 本/株を標準に、好天の日に田植えを行いましょう。

2. ほ場の排水対策・早期の耕起

- ・今後 10 日間の天気予報では、比較的晴れの日が多くなっています。
早めに耕起を行い、土塊を乾燥させることで乾土効果を高め、初期生育の確保に努めましょう。
- ・昨年秋耕を行った圃場や枕地に旋回跡がある圃場では、排水が悪くなっている場合があります。ほ場がすみやかに乾き、早めの耕起に入れるように、**排水状況を確認し、水尻をつなぐなど対策を講じましょう。**



3. 土づくり

- ・最近の調査で、土壌 pH が低いと土壌中のケイ酸も低い傾向があることがわかりました。土壌 pH5.5 未満の圃場では、土づくり肥料を施用しましょう。
- ・基本の施用量はケイカルで 120kg/10a、ようりん 30kg/10aです。
- ・平成 29 年に強風で減収程度が高い地域では、ケイカル等で土づくりを実施した圃場で、無施用圃場に比べ、平均して 30kg/10a 程度の増収効果が見られました。
- ・食味の良い米に仕上げるには稔りが良く、粒張りが良いことが基本です。そのためには、根の活力維持につながるケイ酸分の入った土づくり肥料の施用が基本です。



4. 基肥

良食味・高品質・安定生産のため、初期生育確保を重視し、後半に窒素を持ち越さない施肥量としましょう。栽培マニュアルに基づく基肥窒素施用量は次の表のとおりです。

基肥(全層) (成分 kg/10a)		
窒素	リン酸	カリウム
3~4	3~4	3~4

- ・地力が高いほ場では窒素成分で 3kg/10a、中庸なほ場では 4kg/10a とします。
- ・地力が低いほ場では、窒素成分で 1kg/10a を上限に増量して対応します。

5. 堆肥

- ・地力が特に高い圃場では、堆肥の施用は行いません。
- ・堆肥や鶏ふんを施用した場合は、肥効分を基肥から減肥しましょう。

堆肥施用にともなう基肥の減肥例 (つや姫栽培マニュアルより)

堆肥の種類	牛ふん堆肥		豚ふん堆肥		鶏ふん堆肥 (発酵鶏ふん、乾燥鶏ふん含む)
	C/N 比	窒素肥効率	C/N 比	窒素肥効率	
C/N 比	20 未満	20 以上	15 未満	15 以上	10 未満
窒素肥効率	20%	10%	30%	20%	65%
堆肥の量 (/10a) の上限	500kg		300kg		50kg
堆肥を施用した場合の減肥量 (窒素成分/10a)	1kg	0.5kg	1kg	0.5kg	1kg

<春季農作業事故防止運動強化月間 4/10~6/10>

STOP! 農作業事故 無理せずゆとりある作業を心がけましょう。

